

第2回 大田区基本構想審議会第1部会 議事要旨

日時	平成 19 年 10 月 18 日（木） 午前 9 時 30 分～11 時 30 分
会場	大田区役所 201 会議室
出席者	中井委員（部会長）、奥田委員、千原委員、富田委員、舟久保委員、星野委員（五十音順）
欠席者	田中（常）委員

- 1 開会
- 2 配付資料の説明

3 審議

【空港を活かしたまちづくり】

- ・ 羽田跡地の対象地域は当初の 200 ヘクタールから 53 ヘクタールに減った。対象でなくなった地域も含めて、まちづくりの観点で考えたい。
- ・ 滑走路の延長上は高さ制限があり、事実上、建物は建てられない。53 ヘクタールと言っても、実はそんなに使える場所はない。
- ・ 第四滑走路や国際ターミナルが開業する 2010 年が一つの区切りだ。
- ・ 200 ヘクタールあれば、空港を活かしたまちづくりができるが、これぐらいに減ると、区全体から見ると小さな存在に過ぎないのではないか。
- ・ 区が展開できる部分が小さくなっただけで、国際線ターミナルができるなど、空港の機能があることは変わらない。また、空港だけではなく、周囲の工場跡地や島なども含め、大きなコンセプトを出す必要がある。
- ・ 以前の跡地の構想ではそうした工場の土地についても含めて絵を描いた。現在のところ、彼らとの連携はどうなっているのだろうか。
- ・ それらの土地は工業専用地域であり、区が関わらないと活用できないはず。
- ・ 対岸の神奈川口に大きな動きがある。大田区にとってはライバルでもあるし、うまく連携すれば大きな拠点になる。
- ・ 資料の利用者数予測は国内線のみである。国際線の利用客数を加えると、これにだいたい 1,000 万人ぐらい上乗せするぐらいになる。
- ・ 国際線が増加して利用者は年間 1 億人程度まで増加するのではないか。
- ・ アート・ストリートを東京の玄関口である羽田に向かってつくって頂きたい。そして国際的なまちづくりを推進するため、当面は躍進するアジアのアーティストの作品を展示する現代美術の美術館と、クオリティの高い多目的ホールを設けたい。現代美術は思想性が高く、平和のメッセージを発信するもの

として相応しい。いいキュレーターが運営すれば、過去の美術よりも展開しやすい。

- ・ 文化交流機能といったときに、研究機関などを独立してつくるのではなく、多様な機能を複合的に展開できないか。国際会議場も入ると思う
- ・ 大きな国際会議場はみなとみらい、ビッグサイト、幕張にあり、もう一つ必要だろうか。むしろビジネスの商談をする機能の方がいいのではないか。
- ・ 今後の財政はじり貧だろう。土地があるのだから、富を生む考え方が必要。修学旅行生らが疑似体験ではなく本物の産業に触れられる仕掛けができないか。商談しやすい場所、プロジェクトをまとめるスペースがあるのもいい。
- ・ 若者の視点からは、一番魅力的なものは商業施設だ。アメリカの旅行サイトなどを見ると、彼らは東京に東京タワー（富士山が見える）、浅草寺、明治神宮など「ベタ」な日本的なものを求めている。外国人の期待を考えると、「和」を見せることが必要ではないか。
- ・ 外国人が何を求めているか、彼らにヒアリングすることなども必要。
- ・ 商用で来る人と観光で来る人のニーズはだいぶ違う。両方狙うのか、どちらかに絞るのか。ロンドンやパリは両方狙えると思うが、東京はそういう環境ではないのではないか。商用で余った時間に観光する外国人は少ない。
- ・ スペインのビルバオはグッゲンハイム美術館開設後、世界中の観光客を呼んでいる。ベルリンやアムステルダムのように過去の文化遺産のある都市でも、新しいアートを活用して多くの人を呼び寄せている。環境や平和への意思表示は昔はデモ等だったが、今は美術でそれを表現し、鑑賞するようになった。
- ・ 飛行機の離発着を見ている方は多い。展望台等の展開もあるのではないか。
- ・ 臨空タウンをつくる地域は多いが、ほとんど失敗している。羽田は新しい工場誘致などではないものが望ましい。空港周辺では住宅とは言いにくい。
- ・ 跡地の中には住宅は考えられていない。
- ・ 周囲の工場跡地などではありうる。現実に近隣にマンションができています。

【国際都市としての仕掛け、魅力づくり】

- ・ 国際都市として重要なことは、基本的なインフラが整い、メンテナンスが行き届いていて、それらの水準が高いこと。
- ・ そうした意味で大田区は基本的なインフラが整っているのだろうか。
- ・ 現在の構想では、国際線の行き先に欧米は含まれず、アジアになる。
- ・ アジアにターゲットを絞った国際化というイメージの方が掴みやすい。
- ・ アジアに対していろんなメッセージを発信する場所でありたい。
- ・ アジアには様々な言葉を話す人が来る。病院の規模は大丈夫か。大田区の産業プラザでは大小の会議が開かれるが、その後に泊まる場所がない。また、

- コンベンション機能を持ったホテルは区内にはゼロに近い。ホテルは必要。
- ・今は国内線が主体なので前泊需要のためのホテルが中心。国際線ができると、もう少しちゃんとしたホテルがないと困る。
 - ・エアポートホテルがほとんどないので、宿泊者は大抵、品川に行ってしまう。
 - ・アジアの学生の受け入れも国際交流。若いときに受け入れることで日本のイメージ向上にも貢献する。そのために安全・清潔で廉価な宿泊施設も必要。
 - ・ホテルや研修施設の需要はありそう。空港でなくても、大田区内に欲しい。そうするとアクセスの問題が出る。今の二つの軌道系ではいずれパンクする。
 - ・日本人であることに対する自信、日本の文化を尊重する心をもつと、国際社会の中で発言・行動しやすくなる。アジアでイニシアチブを取るなら、自分が日本人・アジア人であることに自信を持つこと、それを活かした国づくり・まちづくりが必要。「和の再発見」が大田区のテーマとしてあっていい。
 - ・国際都市とは動きやすい都市だ。案内やタクシーで英語が通じると言ったことを考えると、必要な仕掛けは人づくりであることになる。人が富を生み出す。産業人だけではなく、住む人も国際的な視点での教育が必要だ。
 - ・英語、韓国語、中国語の表示ぐらいは、駅などの案内に必要。
 - ・円滑に移動できるために、ハード(移動手段)、ソフト(表示)ともに必要。
 - ・ソウルでタクシーに乗車した際、ドライバーが日本語通訳に電話してくれた。
 - ・韓国語、中国語ができるボランティアに空港にいて頂くというのにも必要。
 - ・外国ではまちなかのインフォメーションに、そういう方がいる。
 - ・そうしたところに日本語で書かれたパンフレットなども置いてある。東京を紹介する英語の資料を都庁で探したが、ほとんどなかった。情報発信が弱い
 - ・温泉地で英語を勉強して成功したという話を聞いた。大田区の産業を観光資源にという話があったが、現状は難しい。操業活動している中で、修学旅行の子どもたちにどう見せるようにするのか、考える必要がある。
 - ・大田区の工場の8割は10人以下。小規模工場では、10~20人の見学客の対応は不可能。工業の集積とよく言うが、その意味は曖昧。区内になれば工場同士連携できないわけではない。工業が衰退気味と言われるが、区内に本拠を置いた他県・他国の分工場は多く、地盤沈下しているわけではない。我々自身がこうした点を理解しておらず、説明するのが難しい。世界に大田区を発信するという事に対して、まだ何もできていないと反省している。
 - ・大田区の工業は高い技術を持った中小企業の人が集積してきた。大工場が一つあるのではなく、小さいがクオリティの高い最先端のものを積み重ねてきた工場が集積し、今に至る。こうしたことをもっとアピールする必要がある。
 - ・大きな工場がなくなり、下請け的なピラミッド構造は切れてしまったが、工場はまだいっぱい残っている。そうしたつながり方をどう理解してもらうか。

- ・ 零細に近い工場が大田区の工業を支えてきたことを伝えたい。
- ・ そういう工場がどんどん潰れているが、残っているところもあり、それが本当のオンリーワン企業になっている。それをどう伝えるか。1人で生きているのではなく、みんなでつながって残っているということだ。
- ・ 発注者が減ると、下請けに出る仕事も減る。それに変わるものが必要。例えば中国から商品試作の注文が来たときアセンブリまで出来るとか、近隣の事業者と打ち合わせる場所があるとか、そういうところが必要。
- ・ 特に国際線も入るのであれば、空港アクセスの京急・モノレール・バスの沿道は、東京の玄関口としてもっときれいな、風格のある風景にする必要がある。窓から見える風景は大事で、それが日本の最初の印象になる。
- ・ 飛行機が好きな人にとっては、飛行機の見える水際は観光サイトになる。

【海、水辺を活かしたまちづくり】

- ・ 水際の延長線は長いが、大きな工場等に占められ、一般の人が近づけない。
 - ・ 跡地の水際線は、環境産業のショーケースにして使ってはどうか。楽しみながら日本の技術が見られる使い方がいいと思う。
 - ・ 船を利用して都心に入る定期便の話も時折聞く。
 - ・ 羽田とTDLを結ぶなど、商業的にも成り立つのではないか。
 - ・ 船は是非やった方がいい。基本構想なのだから、計画期間中に間に合うかどうかではなく、位置づけということで含めたい。
 - ・ 海から大田区を見るのはいい。水路としての利便性があり、開発余地はある。
 - ・ 観光だけではなく、移動手段としての船も可能性はある。
 - ・ 観光用と通勤・通学用と両方あればいい。
 - ・ 海老取川は船が通れるだろうか。
 - ・ 大田区とアムステルダムは、埋め立て・増設を繰り返した点で似ている。アムステルダムでは観光だけではなく、生活にも水路を利用している。
 - ・ 水辺は娯楽やスポーツなど、色々な使い方ができる。
 - ・ マリーナなどがあれば景観的にもいい。今は漁船や屋形船ぐらいしかない。
 - ・ 呑川には係留している船もある。カミソリ護岸はみすばらしいが、舟があると景色は良くなる。係留船をうまく活用できないだろうか。
- ・ 第4回部会は都合の悪い委員が多いので、11月27日15時に変更する。

以上